

トヲ比知スルカ如シ(五)因果比量トハ因果展轉シテ相ヒ比スルヲ云フ
例ヘハ國家ニ功勳ヲ盡ス人ヲ見テ當來ニ爵位勳章等ヲ受クヘシト比
知スルカ如キハ因ヲ以テ果ヲ比スルニアリ又爵位貴顯ナル廟堂ノ君
子ヲ見テ先ニ國家ニ偉大ノ功績アリシコトヲ比知スルカ如キハ果ヲ
以テ因ヲ比スルニアリ

茲ニ於テ因明ノ現量比量ト西洋論理學ニ云フ所ノ觀察實驗推理トヲ
配當スルノ必要ヲ感セリ今試ニ之ヲ對配センニ因明ノ現量ハ彼ノ歸
納法ニ云フ觀察ト實驗トニ該當スヘク又比量ハ彼ノ推理ニ該當スル
カ如シ然リトスレハ因明ハ演繹法歸納法ニ關係スル論理學ナリト云
フヘシ其演繹法ニ關係スル所以ハ知ルヘシ其歸納法ニ關係スル所以
ハ

諸々の丙なるものは皆乙なりと見よ

諸々の非乙なるものは皆非丙なりと見よ

ト云フカ如キハ何々の如しト指示スル喩依ノ物件ニ付觀察實驗シテ
歸納的ニ研究シ推理スルニ由ルモノナリ若シ然ラスハ此合作法離作
法ノ普遍ノ原理ヲ示スコト能ハスト知ルヘシ

第三章 現量智比量智ヲ六因ニ配屬ス

因ニ就テ六個ヲ分ケ之ヲ六因ト名クトハ先ニ既ニ陳ルカ如シ然レハ
今爰ニ於テ此現量智比量智ヲ先ノ六因ニ配屬セント欲ス

抑現量智比量智ハ立敵二者ニ屬スルモノナリ而シテ立者ノ方ニ屬ス
ル現量智比量智ヲ智生因ト名ケ敵者ノ方ニ屬スル現量智比量智ヲ智
了因ト名ケ然ル所以ハ前ニモ述ルカ如ク立者ノ現量智比量智ハ能ク
事實道理因^{義生}ヲ自ラ悟了シテ言論ヲ發生スルカ故ニ因^{言生}之ヲ智生因
ト名ケタルモノナリ又敵者ノ現量智比量智ハ立者カ事實道理ヲ因^{義了}

陳ヘタル言論ヲ聞キ因言了其立論ノ宗義ヲ悟了スルカ故ニ之ヲ智了因
 ト名ケタルモノナリ今之ヲ事實ニ就テ其一例ヲ示サンニ立者カ竈等
 ニ於テ烟アレハ火アル事實ヲ喻トシ更ニ他ノ場合ニ於テ烟ノ昇ルヲ
 見レハ量現之ヲ因トシ彼處ニハ定メテ火アルヘシ比ト宗ヲ立スルカ如
 キハ實ニ智生因ニ由テ起ルモノナリ又敵者ハ之ヲ聞キテ其立論ノ因
 ノ三相ニ由リ宗義ヲ悟了スルハ偏ニ智了因ニ由ルモノナリ
 既ニ然ラハ立者ノ現量智比量智ハ立論ノ原因ナリト云フヘク又敵者
 ノ現量智比量智ハ立論ノ結果ナリト云フヘシ請フ眞能立ノ下ニ照シ
 テ知レ

第六段 似現量似比量

現量比量ニ眞正ナルモノアリ又眞正ナラスシテ誤謬ナルモノアリ其
 眞正ナルモノハ既ニ第五段ニ明シ終レハ今ハ其誤謬ナルモノ即チ似
 現量似比量ヲ説ク

似現量トハ吾人カ外界ニ顯現スル萬象ヲ直覺セントスルニ精神ノ惑
 亂心錯ト錯亂トニヨリテ妄ニ分別ヲ生シ事實ヲ誤謬スル
 ニ名ク此ニ付瑜伽論十五ニハ五種ノ似現量ヲ示ス(一)相錯亂トハ山上
 ヨリ平地ニ雲霧ノ横ハルヲ見テ水ナリト想フカ如キ是ナリ(二)數錯亂
 トハ少數ヲ多數ト認メ多數ヲ少數ト認知スルカ如シ(三)形錯亂トハ圓
 形ヲ角形ト認メ長形ヲ短形ト認ムルカ如シ(四)顯錯亂トハ黃疸ヲ病ミ
 タル者カ萬物ヲ黃色ニ見ルカ如シ(五)業錯亂トハ船ニ乗シテ出帆スル

トキ反リテ岸等ヲ動クト見ルカ如キ是ナリ此五種ヲ概括シテ因明入
 正理論ニハ於テ義異轉スレテ名於似現量ト大疏ニ之ヲ釋シテ不稱實
 境別ニ妄解生スレ名於義異轉ト名似理量ト此標似ト名ト云ヘリ
 次ニ似比量トハ既知ヨリ未知ヲ比較シ推知スルニ誤謬ナル推理ヲナ
 スニ名ク然レハ如何ナル推理ヲ誤謬トスルカ前ノ似能立ニ示スカ如
 キ不正ナリ因喻ヲ以テ宗ヲ立セントスルモノハ皆此似比量ニ由ルナ
 リ
 之ヲ要スルニ立者ノ現量智比量智因智生不正ナレハ從テ言語ニ陳ル所
 因生又過失ヲ免レサルカ故ニ敵者之ヲ聞クモ眞正ノ智力ヲ發生シテ
 宗義ヲ悟了スルコト因智了能ハサルモノナリ

第三部 結論

上陳ノ如ク能立能破等ノ八義ヲ辨明シタレハ讀者ハ因明學ノ如何ヲ
 悟了アリシナラン然レハ前來陳述セシ所ノ大要ヲ概括シ以テ茲ニ一
 言セン

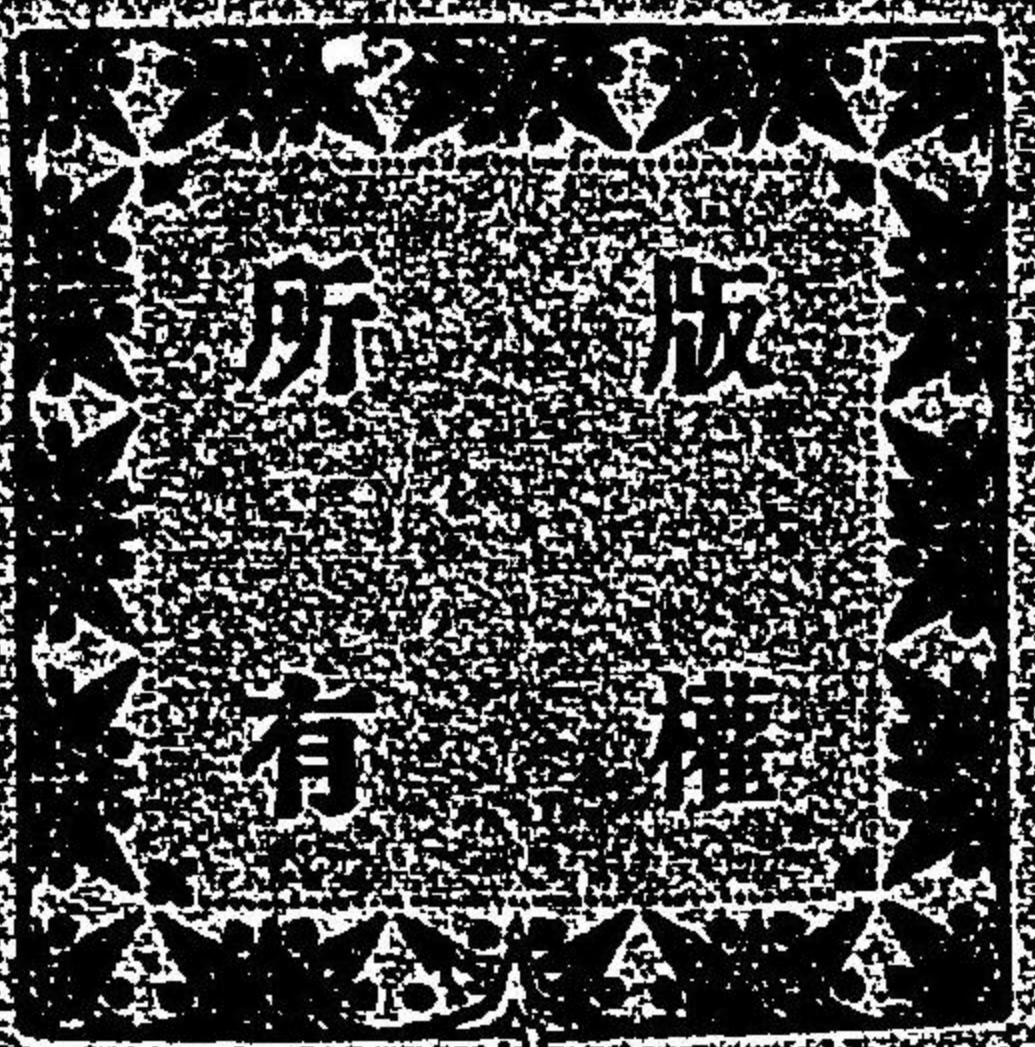
抑モ因明學ハ其大綱ヲ八義ニ分テ之ヲ眞ト似ト相對シテ明ス所以ハ
 似ヲ去リテ眞ニ入ンカ爲メナリ即チ似ヲ知ラント欲セハ眞ニ照シテ
 似ノ似タル所以ヲ知ルヘク眞ヲ知ラント欲セハ似ニ照シテ眞ノ眞タ
 ル所以ヲ知ルヘク此ノ如クシテ以テ似ヲ去リ眞ニ入ルコトヲ得ヘシ
 又此八義ヲ悟他ト自悟トニ類別シ其悟他ヲ攻究スルコトノ頗ル緻密
 ニシテ自悟ヲ攻究スルコトノ極メテ略ナル所以ハ如何ト云フニコレ
 即チ因明ハ問答言論ノ法式ヲ攻究シテ悟他ヲ目的トスルモノナルカ

故ナリ然リト雖トモ悟他ト自悟トハ更ニ相離レサルカ故ニ學者悟他ノ爲メニ能立能破セント欲セハ宜シク自悟ノ智力ニ由ルヘク又能立能破ヲ悟了セントスルニモ宜シク自悟ノ智力ニ由ルヘキナリ然リ而シテ其悟他ヲ能立ト能破トニ分ツ所以ハユレ即ケ悟他ノ目的他ナシ眞理ヲ昏マス邪論ヲ能破シ眞理ヲ顯ス正論ヲ能立センカ爲メナリ余ハ茲ニ慈恩大師ノ一語ヲ引テ以テ因明ノ結言ニ供セントス何事カ是ナルカ曰ク求因明者爲破邪論安立正道ト云ヘルモノ是ナリ

因明學綱要終

明治三十六年五月十五日印刷
 明治三十六年五月三十日發行

定價拾錢



著作者 今井清吉

西村七兵衛

發行所 法藏館

京都市東六條

318
90

故ナリ然リト雖トモ悟他ト自悟トハ更ニ相離ンサルカ故ニ學者悟他
 ノ爲メニ能立能破セント欲セハ宜シク自悟ノ智力ニ由ルヘク又能立
 能破ヲ悟了セントスルニモ宜シク自悟ノ智力ニ由ルヘキナリ然リ而
 シテ其悟他ヲ能立ト能破トニ分ツ所以コレ即ケ悟他ノ目的他ナシ
 眞理ヲ昏マス邪論ヲ能破シ眞理ヲ顯ス正論ヲ能立センカ爲メナリ余
 ハ茲ニ慈恩大師ノ一語ヲ引テ以テ因明ノ結言ニ供セントス何事カ是
 ナルカ曰ク求因明者爲破邪論安立正道ト云ヘルモノ是ナリ

因明學綱要終

明治三十六年五月十五日印刷
 明治三十六年五月二十日發行

定價參拾錢



著作者 今井清吉

發行所 西村七兵衛

京都市下京區中條敷屋町通烏丸東入
 二十人町二十二番戶

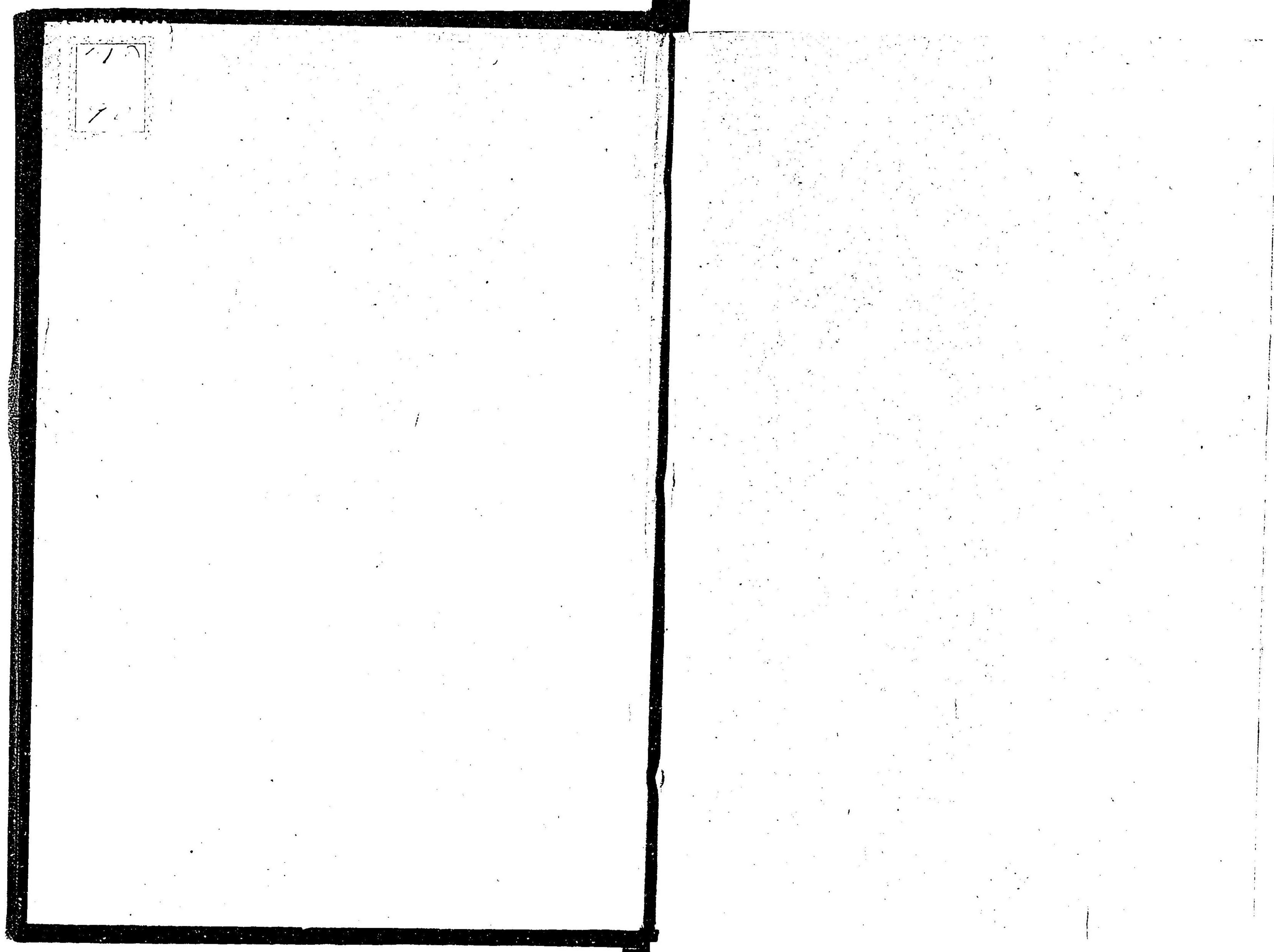
發行所 京都市東六條 法藏館

賣捌所

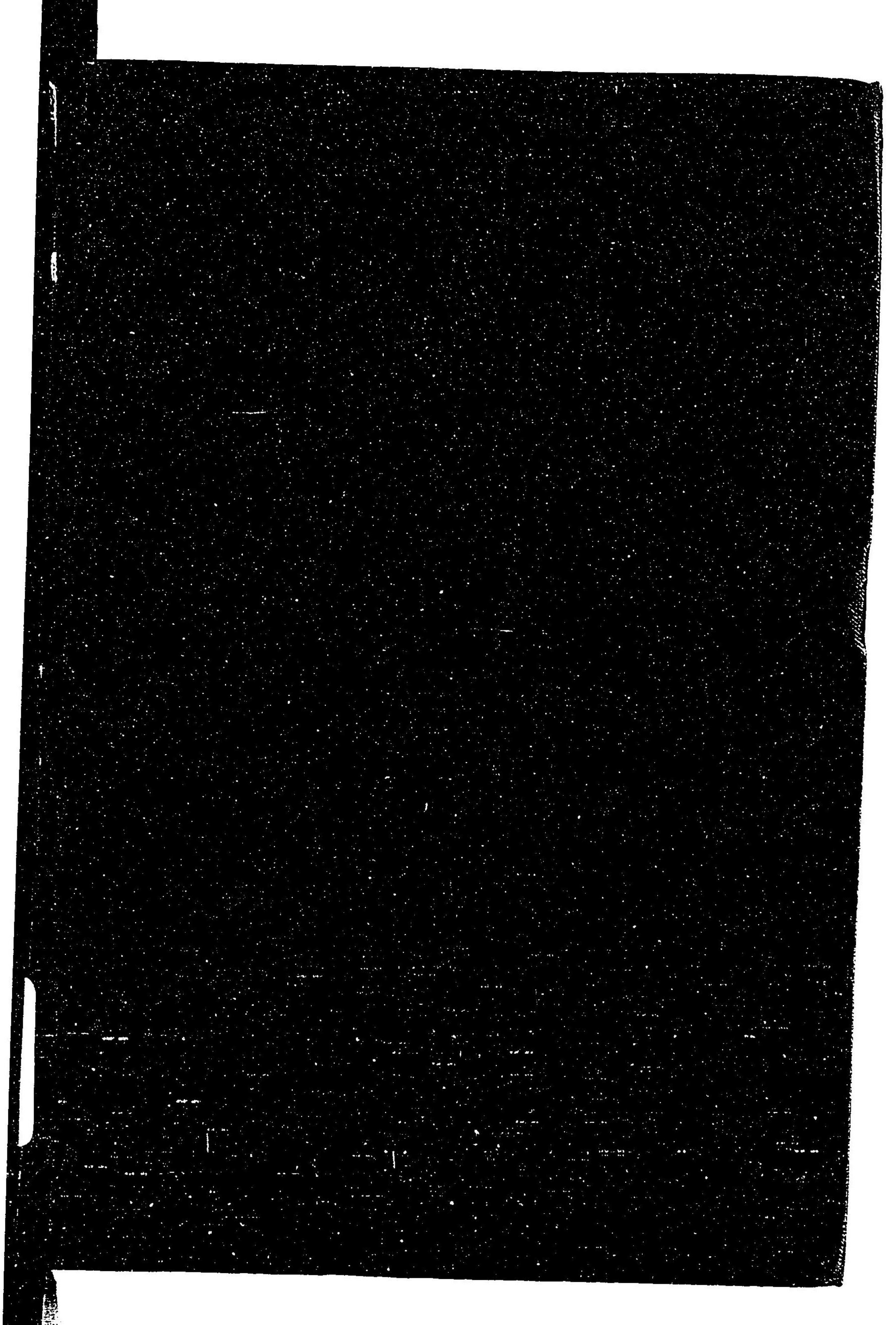
京都文洋堂 京都興教書院 東京文明堂
 京都護法館 京都顯道書院 名古屋其中堂

90

75



100



318
90

Ⓜ

014741-000-5

318-90

因明学纲要

今井 清吉 / 著

M36

ABC-0030



